

2023年10月15日

日本川崎病学会 会員各位

一般社団法人日本川崎病学会  
理事長 高橋 啓

人免疫グロブリン製剤供給不足と川崎病患者への対応について

人免疫グロブリン製剤の供給について不安定な状態が続いていることは多くの会員がご存知のことと思います。10月8日、日本川崎病学会では人免疫グロブリン製剤供給の現況把握とその対応を討議するため緊急理事会を開催しました。理事からの報告により、全国的に人免疫グロブリン製剤供給は不足しているものの逼迫している地域とそうでない地域との格差が非常に大きいことが明らかになりました。治療を急ぐ必要がある急性期川崎病患者への第一治療は免疫グロブリンであり、学会員の皆様におかれましては各施設で以下の点についてご配慮下さいますようお願い申し上げます。

- ◆ 医療機関においては、免疫グロブリン製剤の在庫状況を随時把握できる体制を構築する。
- ◆ 薬剤部や他の診療科と連携し、成人患者には川崎病の適応のない免疫グロブリン製剤をできるだけ使用して戴き、同製剤の川崎病患者への使用優先度をあげるなどして治療環境の維持を図る。
- ◆ 免疫グロブリン製剤の在庫が逼迫し標準治療が実施困難な医療機関においては、早めの患者転送など近隣医療機関との連携を強化する。
- ◆ 免疫グロブリン製剤の不足が深刻な場合は、免疫グロブリン不応が予測される患者への治療強化療法（ステロイドやシクロスポリンの併用）、不応時の2ndライン治療としてのインフリキシマブ治療なども、地域や施設の状況に応じて考慮する。

需要と供給のバランスの崩れから今後も免疫グロブリン製剤の供給不足が継続することが予測されます。その一方、大量購入など在庫の抱え込みによる病院間・地域間供給不均衡が生じていることも考えられます。日本川崎病学会では状況を注視し、免疫グロブリン製剤企業や厚生労働省に情報提供を求め、随時会員にお知らせして参ります。

冬期に向けて川崎病患者の増加が見込まれるなかで、患者さんが適切な治療を受けられるよう病院内・病院間の協力連携体制を推し進めていただきますようお願い申し上げます。

上記について学会員以外の川崎病診療に携わる医師にも情報共有頂けますと幸いです。お困りのことがあれば、学会事務局までご連絡ください。